



R.I DISTRICT 2650
ROTARY CLUB OF

MARUOKA

会長 小見山 修 幹事 石橋 正一
創立 昭和53年3月21日 承認 昭和53年4月6日 (No.14497)

本日の例会

第 1216 回 例会

平成 14 年 10 月 30 日(水)

職場訪問例会

(福井県 食品加工研究所)

次の例会案内

第 1217 回 例会

平成 14 年 11 月 6 日(水)

財団学友 大久保功治さん
(1979~1980年度)

「フルーツ演奏」

— 先週の例会 (第1215回) 報告 — 平成 14 年 10 月 23 日(水) 開会点鐘 12:30

ロータリーソング

「奉仕の理想」

会長報告

皆さん今日は、本例会は特別例会であります。皆さん待ちに待った通称吾郎ガバナーのクラブ公式訪問と例会ということでもあります。ガバナー後程よろしくお願ひいたします。

また、青少年委員会のファミリー登山が雨のため中止になったのはまことに残念であります。本企画をしていただきました委員長はじめ、委員会の皆さんありがとうございました。これからも地域の子供達のためにいろいろ企画していただきたいと思ひます。

今日の人生訓は「紅葉秋風舞」です。



B. Dattaluk

ピチャイ・ラタクル
2002-03年度国際ロータリー会長

地区スローガン

『常に心して、
歩いた後に
平和の花を
咲かせましょう』

Always Remember in Your Heart
To Nourish the Flowers of Peace
on Your Passing

R.I第2650地区ガバナー 岡村吾郎

幹事報告 [来信]

ガバナー事務所より…

- * 財団月間における財団袋
- * 11月27日例会卓話資料
(ポリオ撲滅パンフレット)
- * 「新会員オリエンテーション」
冊子の配布について (1冊500円)

クラブ活動報告書…

- * 福井西、勝山、若狭

委員会報告

国際奉仕委員会

地らいボックスの募金よろしくお願ひいたします。

ビジター者名 (10/23)

岡村吾郎ガバナー、
城田全康地区副幹事長、
横田圭司地区副幹事
増田善宏ガバナー補佐



県内クラブ
例会日

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
福井東 高砂 殿	福井南 山生 狭 武生 武生 狭 若狭 若狭 PM6:30 福井フェニックス ワシントンホテル	福井北 北 丸 敦賀 敦賀 鯖江 鯖江 丸 丸	ワシントンホテル 北陸銀行敦賀支店 鯖江神明公民館 JA花咲ふくい 丸岡ふれあいセンター	福井西 平 安 閣 三 三 国 光 三 国 光 大 大 野 支 店 大 野 支 店 鯖 鯖 江 工 会 館 4 階 鯖 江 工 会 館 4 階 福 福 井 井 井 井 あ あ じ さい 国際交流会館

公式訪問 オフィシャルビジット (Official Visit)

地区ガバナーが年に1回その地区の各クラブを公式に訪問すること。これは、会長・幹事との懇談、クラブ協議会および例会に出席し、ロータリーの総合的スピーチをして、感銘を与え、ロータリー情報を提供しクラブが報告した現況および活動状況について、適切な指示、助言を与え、ロータリーの発展に寄与することが目的である。普通年度前半に行われる。



ガバナー・アドレス (Governor's Address)

ガバナーがクラブ公式訪問、その他公式の会合に於て、参加ロータリアンに対して行うロータリーに関する講演のこと。ガバナーは地区内唯一のR I役員であるので、その内容は感銘深く感動的で、ロータリーの発展と、活動推進に大きく寄与することが期待されている。

クラブ協議会 クラブアッセンブリー (Club Assembly)

クラブ役員理事、及び各委員長が集ってクラブ及び各委員会の活動及びプログラムについて連絡協議する会合のこと。地区協議会の直後、7月1日直後、公式訪問2週間前、公式訪問のとき、地区大会終了後及び1~2月の頃の年6回が望ましいとされている。クラブの他の会員も出席を要請されているが発言は出来ません。

クラブ討論会 クラブフォーラム (Club Forum)

プログラムその他奉仕活動について会員に情報を伝達することを目的とする。クラブ全会員の公式会合のこと。少なくとも四大奉仕について年4回開催することが望ましいとされている。この場合全員参加が原則である。

ニコニコ箱

ガバナー 岡村吾郎様、随員 城田全康様・横田圭司様、ガバナー補佐 増田善宏様、小見山会長、南君、山岸君、林田数一君、林田千之君、林田恒正君、東君、池田君、石橋君、岩崎君、金君、北昭弘君、北勇一君、前田君、増澤君、水上君、中田君、西新居君、西野君、奥村君

下田君、釣部勝義君	本日の合計	79,000円
横山君、川中君、竹澤君	前回迄の合計	625,000円
中山君、澤田君、高本君	本日迄の累計	704,000円
田崎君	前年度との比較	848,000円

ロータリー財団特別寄付

小見山会長、石橋幹事、林田数一君、東君、金君、水上君		
下田君、竹澤君	本日9件	計21,000円
釣部勝義君	本年度累計	140,000円

ロータリー財団ベネファクター積金

本日0件	計	0円
本年度累計		40,000円

米山奨学会特別寄付

小見山会長、石橋幹事、林田数一君、東君、川中君、金君		
水上君、中山君、下田君	本日10件	計21,000円
釣部勝義君	本年度累計	152,000円

■ 出席 ■

本クラブの各会員はクラブ例会に出席しなければならない。会員は、本クラブの例会に出席したものとみなされるには、例会に充当された時間の少なくとも60パーセントに出席するか、または、次のような方法で欠席をメイクアップしなければならない。
本クラブの例会に定例の時の前14日または後14日以内に、他のロータリー・クラブまたは仮クラブの例会に充当された時間の少なくとも60パーセントに出席すること。

出席報告

1212回例会	会員数	当日出席者数	Make up	出席率
例会日 10/2	45	28	12	90.90%

■ 終結 — 欠席 ■

- ① ロータリー年度の各半期間において、メイクアップを含むクラブ例会出席率が少なくとも60パーセントに達していなければならない。
- ② ロータリー年度の各半期間に開かれた所属クラブの例会総数のうち少なくともその30パーセントに出席しなければならない。
- ③ 連続4回例会に出席せず、またメイクアップもしていない場合、自動的に終結するものとする。

例会変更受付のみクラブ名

事務局 〒910-0254 福井県坂井郡丸岡町一本田34-7
J A花咲ふくい丸岡ふれあいセンター内
TEL (0776) 67-0410 FAX (0776) 67-4811
例会場 J A花咲ふくい丸岡ふれあいセンター 3F

例会日 毎週 水曜日 12時30分 会員数 年度初 41名
会報委員長 林田千之 副委員長 南出辰男
委員 川中晃一・中山敏夫・奥村雅徳・塚田修一
山下健治・

ガバナー・アドレス 岡村吾郎氏

皆さん今日は、秋雨の後は空気もしっとりとし、山は装い、谷は華やぎ、里は実りで賑わっていますが、すでに朝夕の冷え込みが日を追ってきびしくなり、木々の葉は早くも冬支度を始めています。

丸岡ロータリークラブの皆さんのお元気な顔を拝し、嬉しく思います。

当クラブからは職業奉仕委員として山岸様ご活躍いただいております。一年間よろしく願います。

増田ガバナー補佐様、いつもお世話になりすみません。



只今会長様からご紹介いただきました2002年～2003年 R I 2650地区の岡村吾郎ガバナーです。

人は、みな刻々と移り変わる時の流れの中で人生を学び、人生を感じます。自分の手にした、かけがえのない時間と悠々と広がる新しい時間を眺めつつ、人は「人生」と云う舞台で時を刻んでおります。

その舞台上、生きてゆく為のエネルギーを生み出してくれる出会いがあります。

私の人生に於きましては色々な出会いがありましたが、その一つがロータリークラブであります。

私の職業は産婦人科医です。この世に新しく生まれてくる生命をとりあげ、そのうぶ声を聞くことを人生の唯一の喜びとし、生きがいとしている者ですから皆さんから見れば社会の狭い人間であることは自分でも認めておりました。そこへ中学校の大先輩であるロータリアンからお電話がかかってきました。そして自分の職業で自分一人だけ喜びにひたっているのも結構だが、多くの人々と共に、今の喜び今の感動を、他の形でもって体験すれば、人生にはもっともっと多くの喜び、感動を知ることが出来るからとロータリーに入会をすすめられ、先輩の声がかりで入会したのがちょうど30年前です。

それから色々な奉仕活動に参加し、感動もあり感激もしましたが、私にとりましては妊婦と共に必死にとりあげた女の子が、年頃の娘に育ち、すばらしい伴侶を得て、再び私の前に現れました。そしていきいきとした眼で私をみつめ、

「先生が私をとりあげてくれました。私の赤ちゃんもとりあげて下さい」と診察に来て10ヶ月後、私は孫にあたる可愛い生命をとりあげました時、その感動は産科医としての最高の喜びでありました。

現在も今もなお産婦人科医になってよかったと、この年齢になっても感謝の日々です。

この様な思い、感謝の心を持たたことは、ロータリークラブに入って、「総てのことに相手立場にたって、つくすことが人生の道だ」と教えられたからなのです。

そして7年前に頸の筋肉が骨の様に硬くなる頸椎後縦靭帯骨化症と云う大病に罹り、生死をさまよいましたが、奇跡的にこの世に呼び戻されまして、その命をもう一度社会の為に奉仕に専念せよとガバナーのご指命をうけたのであります。どこまで盡すことが出来るかわかりませんが皆様のご経験とお知恵と感性を賜り不撓の気持で奉仕に専念したいと思っておりますので皆さんのご協力をよろしくお願い申し上げます。

新年度に入って6ヶ月になります。すでに活動されていると思いますが、一応私の所信をのべさせていただきます。さて、2002～2003年度のR I会長はタイ国のバンコク出身のピチャイ・ラタクル氏であることは皆さんご存知のことです。

佛教国の出身で私達と同じ東洋人でありお顔は佛様の様に温和で言葉もやさしく最高のR I会長でありますことは、去る4月の地区大会で立証済みです。2002～2003年度、国際ロータリーのテーマは「慈愛の種を播きましょう」です。去る3月アメリカのアナハイムの国際会議で会場をうす暗くした舞台上、ピチャイ・ラタクル会長をライトアップしました。そこで会長は「sow the seeds of love」と優しく語りかける様にスピーチされました。1000余名のロータリ



アンは、お互いに顔を見合わせニッコリ、一瞬の静寂の後に、万雷の拍手で会場は興奮のルツボと化したのであります。ご想像下さい。

さてこのテーマは私達東洋人にとっては解り易く、ソフトで素晴らしいテーマであります。特にラブを単なる愛でなく慈愛とされました。その心の優しさ、広さには、感服しているところです。現在ロータリークラブの名に於いて、数多くの奉仕活動が行われています。その奉仕活動の根底にあるのは、慈愛の心であり、その慈愛の心が私達に奉仕活動への意欲を奮い立たせてくれるのです。まさしく、ロータリーの奉仕活動を背後からもささえてくれる原動力なのです。

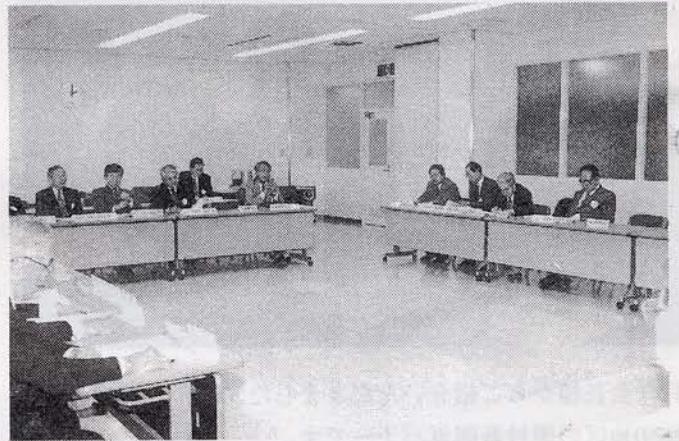
さて、「慈愛」と言う言葉は、いつくしみ、思いやりの心、思いやりの言葉、思いやりの行い、楽しみを与える情け深さ、すべての人々に友情を持つことで仏教では、総ての物に対する広大な愛を示しているのです。その慈愛を播くと云うのは、広く伝えおよぼすと云うことであります。ですから慈愛の種を私達はまず私達の家族に、職場の人々に、次いで地域社会に、さらに世界の人々に播き平和をもたらしましょうと、ピチャイ・ラタクル会長が力説され、その実行を望んでおられるのであります。慈愛の種を播き、水をやり、花を咲かせるのは皆さん私達ロータリアンであります。奉仕の喜びを身でもって味わって下さい。それには例えどんな小さな事でもいいのです。皆さんと一緒に行動に移しましょう。



それではその慈愛の種は何処に播きましょうか。ピチャイ・ラタクル氏は自分のクラブに、自分の職場に、地域社会に、世界に、青少年にとのべられています。この5つの中で色々な慈愛の奉仕活動が行われることと思いますが、皆さんのクラブの現状をよく把握し問題をしぼり、クラブの独自性、地域性をいかして下さい。

では、皆さんのクラブに対して、ここで考えられるのはロータリーの永遠のテーマである「会員増強」です。最近某所で年配の女性からこんな言葉が発せられました。「昔のロータリアンは尊敬出来る人が多かったが、最近のロータリアンはレベルが下がりましたねえ」と…。少々頭にきたのですが、うなずかざるを得ない点も、なきにしもあらず

です。私は、ロータリアンは同じ花びんに入れられた花束のようなもので、赤い花、白い花、その一本一本の花は異なりますが、その一本一本が集ってひとつの美しい花束となり、人々の心をなぐさめ、癒してくれるのです。同様にロータリークラブには色々な方が入会されます。全員が徳のある人であれば、それは素晴らしいことですが、そうはまいません。それは無理と云うものです。未熟な者も入会して、先輩のロータリアンと一緒に食事をし、語らい、奉仕活動を続けているうちに、立派なロータリアンに育つてゆくのがロータリークラブの一つの特色なのです。私達はお互いに奉仕の道を通して人格形成に努力しているんですと反論いたしました。くだんの女性は『そうですか』とそっけない返事でした。



目をとじてじっくりと考えた時、最近のロータリークラブは余りにも親睦、親睦と友情をとり違えた交ひ合いが多くて、そこに人間の人格形成の姿が浮かんでまいません。ですから一般の人々からロータリークラブは昼食会と皮肉られるのです。私達の大先輩であります小谷隆一PGが説いてのべられています様に、ロータリーは「人生哲学」であり、「紳士の修養道場」であるから、奉仕活動と云う人生の研究、道場、又、実験をとうして、人間形成に務めていただければ、自然と徳が身につく、魅力あるロータリアンに成長し、そしてロータリークラブも尊敬される様になると思われました。

そこに於いて会員増強がスムーズに運んでゆくのではないのでしょうか。

少し高尚な話になりましたが、その様に事がうまく運ばばいいんですが。

さて現実に戻りまして、会員増強どころか退会者が目立ち、R I本部も増加にやっきになっています。併し残念ながら、手段を選ばず、その目的遂行にやっきになっておられる様に見えます。

その現れが、ロータリークラブの特色をなくそうとしています。メーキャップ日数の延長であり、又、職業分類の拡大解釈ではないでしょうか…。会員増強の目的の為、数字や数量と云う物質的なことに捕らわれすぎて、仕事の高貴

や犠牲を評価しなくなつてはいけない事を頭に入れながら、会員増加にはげんでいただきたいと思います。これは社会や集団のエリートである皆さんですから、理解も実行もしていただけるものと信じます。皆さんゆっくと歩みつけて、止まらないで増強につとめて下さい。お願いします。私の考えですが、奉仕とは相手の身になって真心を尽くすことです。その奉仕の出来る人は、経済的にも精神的にも又時間的にも余裕をもっている人を云うではありません。相手の立場を思いやる奉仕の心を、はぐくみ真心を尽くすことの出来る人、この人が真のロータリアンであり、この様な人々の集まりがロータリークラブであり、そして友情をつちかい、自己を向上させる場所であり、そして奉仕活動を通じて心身をフレッシュし、明日への活力をよみがえらせてくれる場、これが我々のロータリークラブと私は思っています。

この魅力あるロータリークラブに一人でも多くの友人の入会をすすめていただくことをお願いします。

自分の職場に慈愛の種をまくことですが、最近、不況不況と口ぐせのようですが、戦後の脅威的経済復興によってもたらされた「物」の豊かさによって、日本人は次第に鈍麻され、人間の本質（道徳性）が希薄になって、それがあたりまえになった現在、本来の「もの作り」を忘れています。かつての物作りには『物』の中心に心があり、『物』に便利とぬくもりを感じました。



併し現代のもの作りは、ともすれば科学と技術にとらわれ、安く、早くたくさんとなり個性を失い、只単に形だけになりました。一日でも早く本来の美しい温かさを語りかける物作りに帰ってきて欲しいと思います。

私が考える職業奉仕の一番大切なことだと思います。その心でもって相手に喜びを与え、そして自分にも喜びが帰ってくる。則ちロータリーの信条である「最もよく奉仕する者は最も多く報われる」この報われるは物を得るのではなく、心の喜びを得るのです。この最もよく奉仕する者は最も多く報われるが私達の生活にまさに適合するのです。これは日本古来から伝えられている商道徳（商売の道）であり、お互いの喜びがお互いの利益につながるわけで私達の商売（生活）が成り立っているのです。現在の様に経済不況で

あればある程、相手の立場、その身になっての慈愛の心が必要だと思います。次に地域社会への慈愛の心ですが、ポール・ハリスがロータリークラブを創立して以来、常に考えていたのが、社会奉仕活動であり、これがなければロータリーは消滅すると考えた結果、一番最初に行った奉仕活動がシカゴ市内に公衆便所を作ったのです。

以来ロータリークラブは社会奉仕活動を続けておりますが、他の団体の金銭的活動におされ活動が目立たなくなってきています。が、社会奉仕活動の一番大事な事は、その奉仕が「野鳥のえづけ」的なものでなく、バラまきの支援でなくメリハリのある支援、地域社会のニーズをとりあげていくことです。「野鳥のえづけ」的奉仕は、怠け者を作り、生態系を破壊するだけの愛でしかないのです。

そこで私が思っていることは、どんなに世の中が便利になっても、機械化されても崇高な心を持った人の手で作られたものには、時代を越えた美しさがあります。日本に於いても受け継がれる伝承の心、その伝統産業（和紙、つむぎ）を守るプロジェクトが必要と考えます。現在私は我々はもっと日本を愛さなければと考えています。

と申しましても世界の中の一員であります日本は世界に目を向けねばなりません。

世界平和の為に、1988年5月世界保健会議（WHO）がポリオの撲滅を採択しました。ロータリークラブもそれに援助の力を出しまして、1979年よりその活動への募金運動のプロジェクトに参加すると共に、直接現地におもむいて、ポリオ撲滅に全力投球以来、ポリオ患者は減少路をたどり、1昨年10月西太平洋地域で根絶宣言を致しました。が併し地球はまだ広く、インド、アフリカ、パキスタンでは患者がまだまだ多く発生して居ります。

ロータリークラブでは2005年のロータリークラブ創立100周年に世界からポリオ完全撲滅を目指して活動しているところ

です。今年度ビチャイ・ラタクル会長はその目的完遂の為に「ポリオ撲滅募金キャンペーン特別委員会」を設立され、私達に、その協力を強く依頼され、日本の委員長に千P G、当地区の委員長に西村直前Gが就任されました。この地区にてR I会長直轄委員会として、松原委員長以下10名が各クラブにご無理を申し上げに参上いたしますので、その節にはよろしく願い申し上げます。一方ですでに会員の皆様にご協力いただいております、WCS委員会（世界社会奉仕委員会）についてご説明させていただきます。

世界の惑星の一つである地球は、常に争いの炎があがっています。「平和」を闘争から産み出そうとするのは、「水を集めて、山を作ろう」とするのと同じです。ここに慈愛の心なくしては平和は訪れません。「憎しみは憎しみしか生まない」と云う感性と理性を持たなければ、人間は自滅するでしょうし、その闘争から生まれてくるものは、平和

でなく破壊であり難民であり疫病であります。その人達の日々の生活は現在の恵まれた日本人には想像つくものではありません。そこで今年度WCS委員会は其の現状視察と対応の為に、すでに6月カンボジアへ行ってあります。すでに援助金を皆様にご負担いただいておりますが、私達が想像した以上の貧困の生活をしている様ですので、皆さんのもう少し温かいご援助をお願い申し上げます。と共に来年2月9日～15日までカンボジアにおもむいて奉仕活動による感動の日々を送っていただきます様にご案内申し上げます。ご参加の方をお待ちしております。

ここで一つの提案ですが、その際に新聞記者、又レポーターと一緒に参加していただき、その目で見ただけで感動したことを広く報道していただけたら、素晴らしい国際奉仕活動になると信じます。広報委員会でご一考下さい。

青少年に慈愛の種を播きましょう。

人間が成長してまいりますには、「智育」「徳育」「体育」の三つの教育が必要です。

併しながら戦後50有余年、残念ながら日本は学校、社会、企業に於いて智育第一主義となり、その上に物質に恵まれすぎて子供達は感謝の心を忘れてしまい、日本人としての自覚と誇りがなくなりました。そこで国もやっと重い腰を上げ道德の必要性を説いております。一方で、日本のロータリークラブの今年度ガバナー会に於いて教育改革にロータリーが協力することになり、「人間性豊かな日本人を作る」と云うテーマで10月から活動をしていますので、皆様のご協力お願い申し上げます。

最後に7月1日、私がガバナーに就任しましてから、差出人不明のお手紙を3通ばかりいただきましたので、ご披露させていただきます。

- 1、ロータリークラブはお金を集めるのではなく、集まるようなクラブになること。
- 2、会員増強は増やすのではなく、入会を希望するようなクラブになること。
- 3、やめたくないクラブにして下さい。魅力ある誇りあるロータリーにもどして下さい。

とご年配の方の筆跡でございました。私達は心すべきことと思います。

以上、所信をのべさせていただきましたが、これから皆さんと一緒に慈愛の心でもって活動してまいりたいと思っております故よろしくお願い申し上げます。

